

恐竜調査隊

が行く

岡山理科大学教授 石垣忍

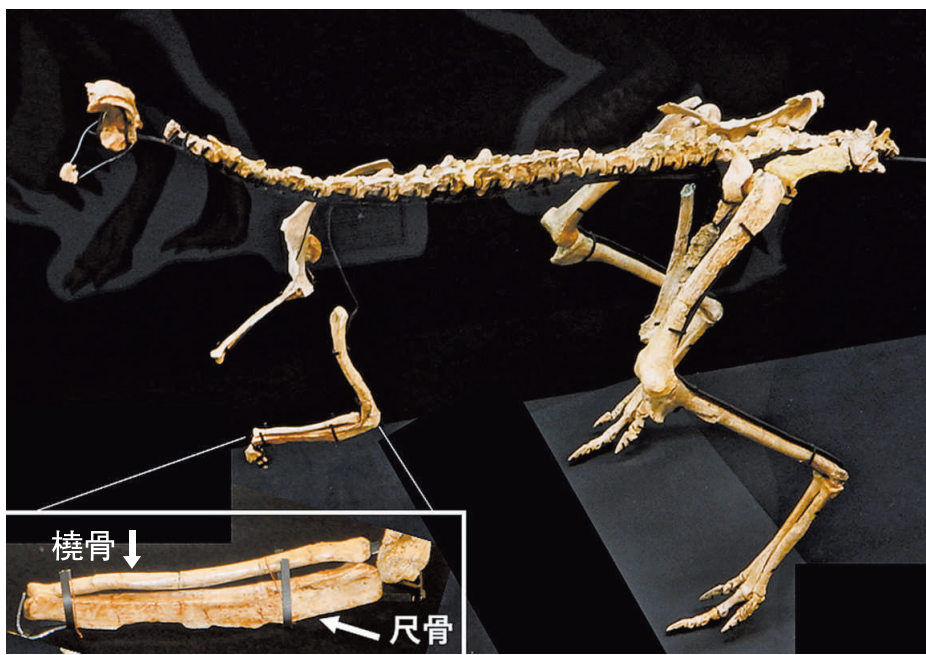


鳥みtainなアビミムス

腕時計をはめるあたり、手首の小指の側。かたい骨の出っ張りをきわまりましよう。

そこから、「ひじ」まで、皮膚の下の骨をつまんでゴリゴリゴリ。うーん細くて

長い骨。これが「尺骨」です。さて、この尺骨はヒトの体ではあまり目立ちませんが、鳥の体では太くて目立ちます。なにしろ手の先の部分と合わせて、空を飛ぶための風切り羽がつく場



アビミムスの全身骨格。短い尾やきゃしゃな頭骨、長い脚、そして「鳥」のような前足が特徴です。左下の写真は、左の前腕の部分。桡骨(上)に比べて尺骨(下)は大きく、羽根がついていたと考えられています。

腕には羽根がついていた

所なんです。

さて約40年前、戈壁砂漠で小型恐竜化石が見つかりました。よく調べたところ、なんと「尺骨」に羽根がついていたようだ！ほかの恐竜と違って前足は鳥みたい！しかし腰などの骨の形は恐竜そのもの。なんじゃこりや。

悩ましいこの化石は「鳥に似ている」という意味で「アビミムス」と命名されました。

1990年代、岡山の林原自然科学博物館とモンゴルの共同調査隊がアビミムスの新しい全身骨格標本を発見。同時に足跡化石も見

つけて、鳥に似た体つきだけ

でなく、100匹近い群れで時速30キロで走ったことがわかりました。現在研究を引き継いだ岡山理科大学とモンゴルの共同調査隊は、アビミムスが出た地層の年代について新しい成果を上げつつあります。

世界が注目する謎に満ちた非鳥類型恐竜アビミムス。さあこれから岡山発の新しい研究成果が出てくるよ！待ってね。え、尺骨を見たい。

組上げ骨格は岡山理科大学の恐竜学博物館にあります。ぜひその骨格の尺骨は環境学習センター・アスエコで展示中です。詳しくはアスエコで検索してください。



アビミムスの復元画。鳥そっくりの獣脚類恐竜です。(絵：井上レナ)

まめちしき 豆知 識

一口に「羽」といってもいろいろあります。鳥の体を見ると首から胸、腹、お尻まではふわふわした「羽毛」です。そのいっぽう、翼の部分はしっかり羽ばたくための「風切り羽」です。アビミムスの体にも、ふわふわした羽毛と硬い羽根の両方が見られたことでしょう。